

第3章

適切な運行経路の選択と 経路情報の把握



1

適切な運行経路

1 安全性に配慮した選択

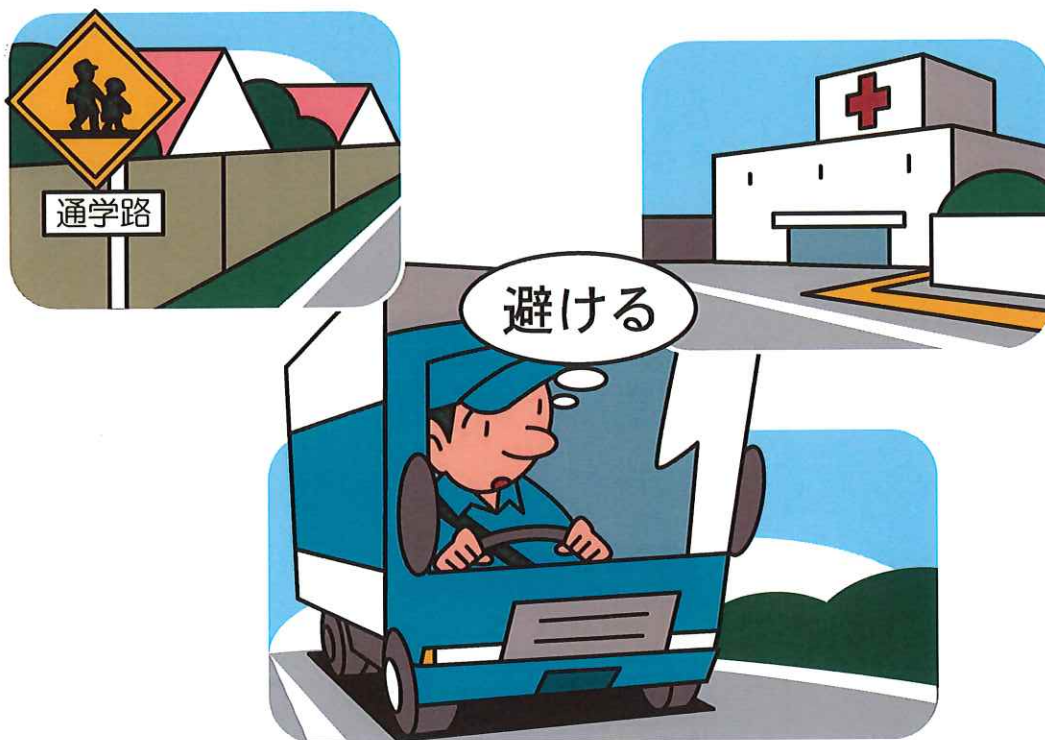
◆人口密集地はできるだけ避ける

安全な運行を行うためには、適切な運行経路の選択と、運行経路の道路情報などをあらかじめ把握しておく必要があります。

適切な運行経路の選択にあたっては、到着時間などを考慮した効率性も必要ですが、通学路や病院周辺の道路、人口の密集した住宅地などはできるだけ避けるといった安全性への配慮も重要な条件となります。

◆指示された運行経路に従って走行する

運行経路の選択・決定は運行管理者が行うことです。ドライバーは指示された運行経路に従って走行しなければなりません。独断で運行経路を変更してはなりません。



2 経路情報の事前把握

◆事前に道路や気象などの経路情報を把握しておく

運行経路の道路事情や交通状況、気象状況は常に変化しますから、事前にできるだけ情報を把握しておくことが大切です。

また、運行経路におけるヒヤリ・ハットの多い場所や事故の多発している場所もしっかり把握しておく必要があります。

◆大雨や大雪などの異常気象時は運行経路に注意する

大雨、大雪、暴風雨、暴風雪、濃霧等の異常気象時や土砂崩壊、路肩軟弱等により運行に危険が伴う場合は、運行経路をチェックするなど、安全を確保するために適切な措置を講じる必要があります。

とくに大雨の場合は、冠水しやすい道路や洪水のおそれのある河川沿いの道路を避ける、台風による強風が予想される場合は、突風の吹きやすい橋の通行を避ける、大雪の場合は、チェーン規制の有無など、気象状況に応じて運行経路を検討することが大切です。

※「異常気象時の措置」については第4分冊第3章参照。



2

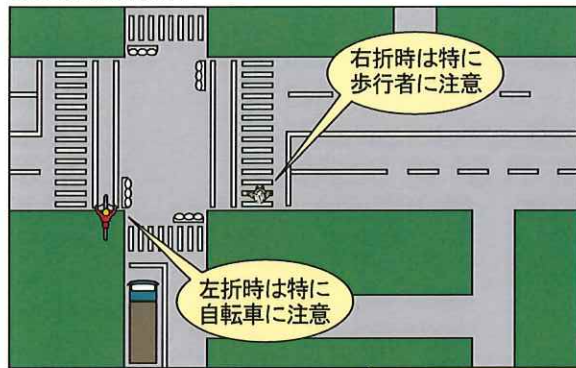
ヒヤリマップの活用

◆情報の共有化ができる

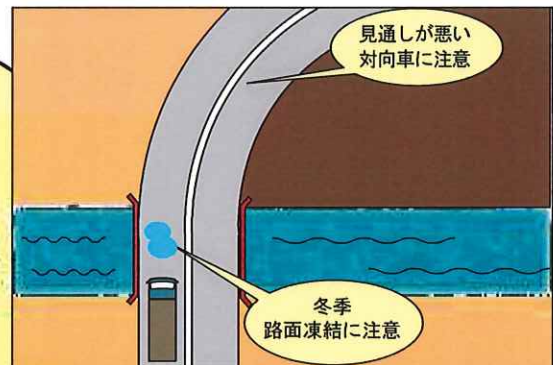
ヒヤリ・ハットの多い場所については、事前にその場所を確認しておくとともに、走行上の注意点をよく頭に入れておくことが大切です。そのための方法として、ヒヤリマップの作成が効果的です。

ヒヤリマップを作成することで、危険な場所や安全走行のポイントなどがひと目でわかるとともに、その情報を皆で共有することができます。

〇〇町交差点付近



〇〇町〇〇橋付近



〇〇町住宅地

